

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームつばさ原町 - 八幡)

事業所番号	0691600043		
法人名	株式会社 ユニバーサル山形		
事業所名	グループホーム つばさ原町		
所在地	天童市大字原町145-1		
自己評価作成日	令和3年3月1日	開設年月日	平成26年 3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流や、外出レク等、施設内に留まらず、より多くの交流を図る事により、利用者様にとって刺激のある日常生活を送って頂き、つばさ原町での生活に納得し、満足度を上げる事を入れてきた事業所です。
 しかしながらコロナ禍においてはこれらの強みが叶わず、職員のモチベーションも含め、達成感はなかなか得ることは難しかった1年だと感じました。コロナ対策にも十分気を付けながら、可能な範囲でできる事を探し、オンラインで外部との交流を行ったり、(家族とはもちろん、海外とも繋いで、楽器の生演奏の鑑賞会を開催するなど)同法人内の理学療法士から助言を頂き、ADLの低下を防止する取り組みを行うなどは継続できていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はこれまで、理念に基づき、地域との交流の中で生活できるように努力し、地域の一員として認められるようになってきた。コロナ禍の中、その機会をほとんど奪われつつあるが、町内会や氏子の集まりなどを大切にしながら、玄関に地域の神社みこしの写真を飾るなどの工夫を行い、交流意識が途切れないうように努力している。また、家族との交流機会も途切れそうになったが、担当者が書く毎月の「お便り」の内容を充実するとともに、お便りに写真を同封すること、オンライン面会の機会を可能にしたことなどにより、事業所に対する家族の信頼感を高めている。また、医療面では、数人の協力医の確保して、家族の希望する医療機会を選択できるようにし、利用者の健康管理に係る家族の安心感を高めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 3年 3月 18日	評価結果決定日	令和 3年 3月 24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時の基本理念の唱和を出勤者全員で行っている。	朝礼時や会議で基本理念を唱和したり、事務室等に掲示したりして、「明るく、楽しく、笑って」「その人らしい生活」を「地域との交流」の中で実現できるよう、意識共有を図っている。今年度は特に、コロナ対応で緊張を強いられたので、管理者は、「明るく、楽しく、笑って」利用者に接することを大切にされた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	活動の制限を余儀なくされた為、閉塞感が漂うのが現況。	従前は、町内会に加入したり、神社の氏子になったり、地域に積極的に入り込み、神社の祭りや事業所の夏祭りで交流するほか、地区の文化祭への参加、小中学生との交流、ボランティアの受け入れなどを行っていたが、今年度は、交流機会が限られた。それでも、地域の一員として、玄関に地域の祭りの写真を飾るなどし、地域での認識度は高くなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の制限により実践はできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は書面でのみ行い、報告のみの一方通行となっている。	従前は、市職員・包括職員・町内会長・民生委員・法人代表等が出席し、2ヶ月に1回開催し、運営状況や事故事例等を報告し、運営上の課題や地域の協力体制等について意見交換を行い、サービスの向上を図っている。今年度は、会議形式を控え、書類を送付し意見を伺っている。特に感染症についての話題が多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市への報告は適宜行い、情報の共有は図れている。	従前から、市職員や相談員が運営推進会議へ出席するなど密接な意識共有と協力関係が築けている。今年度は、メールで制度改正や研修会の情報提供を受けたり、利用者の個別案件についてはその都度相談している。困難事例についての対応などに問題が生じないような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に対する理解は共有し、十分に配慮している。</p>	<p>指針に基づいた対応ができていないか、毎月のユニット会議で状況を話し合うとともに、3か月に1回開催する身体拘束適正化検討委員会で詳しく対応策の検討を行っている。日中は施錠せず、外出したがる利用者に対しても、声掛け、寄り添い、同行・散歩で気持ちを落ち着かせる等で対応している。転倒しやすい利用者への対応策の検討も詳しく行い、適切なケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>朝礼や定例会議の場において職員同士が観察・声がけしあうことで施設内、家族内の虐待の未然防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>面会の制限により、定期的に頂けていた、行政書士の先生からの情報提供が叶わなかった。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、管理者より説明を行い、理解・同意を頂けている。サービス利用後の対応については職員間で情報共有を行ったうえで、対応している。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会がほぼできない中、主に電話で情報収集を行い、施設内で職員間での周知を図った。</p>	<p>従前から、利用者からは日常会話を通して、家族からは面会・行事・意見箱等を通して聞き取りを行っている。今年度は家族からの聴取が難しくかったため、家族への毎月のお便りを、担当者が詳しく書き、写真を同封するなどで充実し、家族の信頼感を高めている。また、遠隔地に住んでいる家族と「ズーム」を行うなどの工夫で、利用者のストレス解消とモチベーションアップを図った。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常会話や、個別での面談等で職員の意見を個々に聞いたり、会議で話し合い、検討・反映させている。</p>			
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者から代表者への報告はもちろん、場合によっては代表者が職員に個別に聞き取りをし、より働きやすい職場を目指し環境整備に努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があってもなかなか送り出す事ができず、コロナが一時的に落ち着いた時期を見計らいながら、研修を受ける機会を確保したのが現状。	今年度は従前のように多くの研修機会を確保するのが難しかった。その中で、内部研修では、法人内専門職員を講師にして嚆下機能などについて学び合ったり、外部研修については、最近になって初任者研修や実務研修に参加させている。管理者は、年に2回職員と面談する機会があるので、その際に、職員一人ひとりの研修機会や資格取得について聴き取り、それを支援している。新職員のOJTも行っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	直接対面した交流は得られなかったが、電話等での情報交換は、他施設との間でもできている。	従前は、県グループホーム連絡協議会、市内の介護事業所連絡会に加入し、情報交換やネットワークづくりに努め、得られた知識や経験を運営に活かしていたが、今年度は従来のネットワークを活用し、電話やIT機器での情報交換・交流に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時の情報を事前共有した上で、ご本人と話しながら心配ごとなどを引き出し安心して利用して頂けるよう工夫している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに繋がる前段階で家族の不安や悩みをお聞きし、ケアプランに反映したり、来所時に会話を通して関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活でご本人の要望や来所時の家族との面談で、サービスについてどのような支援を望まれるかを聞くようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに役割を担って頂き、共同生活される利用者様同士の信頼関係の構築に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様への連絡・報告を密にし、ご本人との距離が離れない様、努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン通信を使い、可能な限り孤立することが無いよう努めた。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内の席は固定ではなく関係性に応じて、席の見直しを適宜行い孤立しない様、努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外部で会う機会がある時は、終了後の様子をお話頂く機会があった際には傾聴し、支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の尊厳を大事にし、本人本位の思いや意向の把握に努めている。	利用者については、「生活歴」を確認し合いながら、会話やつぶやきから意向を把握するようにしている。困難な場合は家族などの話も踏まえ、皆で検討し合い、本人らしさを確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて情報を職員間で把握し、サービスに生かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調変化や心身状態の把握に努め、ケアを行うよう努力している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向はもちろん、御家族の思いを聞き取り、協力を仰ぎながら、一方的な介護計画にならないよう、心掛けている。	変化がなければ6ヶ月毎に、家族の意向も訊いて、サービス評価表を基にユニット会議で話し合いながら新計画を策定している。この際は、現在は特に、例えば、配膳・下膳、おしぼりたたみなどなど、利用者一人ひとりの好む役割を考えて、生活の充実感や達成感を得られることを大切にして作成するよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等をその都度記録に残し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできているが、活用はなかなか叶わなかった。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	変化がある場合はすぐに御家族へ報告し、家族の意向をかかりつけ医に逐一報告し、適切な医療を受けられる様、努めている。	基本は利用者・家族の希望するかかりつけ医であるが、多くの利用者は、往診可能な複数の医師の中からかかりつけ医を選択している。往診は、それぞれ月に1～2回ある。受診の際は利用者の状況を「看護情報サマリー」で医師に伝え、受診結果を家族から聴き取り記録に記載している。往診の際は全て職員が対応し、結果を家族に報告している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護の看護師との間で情報共有している。日常的な事については毎日職場内の看護師への相談報告を行っている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の様子はなかなか把握する事が難しく、受け身の姿勢になる事が多かった。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での家族との話し合いは往診の先生からの提案により実施できており、その後の対応についても協力体制を図りながら実現できている。	利用開始時に「対応指針」を家族に十分に説明し、希望を把握し、同意を得ている。重度化した場合は、早い時期から医療機関、家族、職員で話し合い、対応を確認し、情報を共有しながら対応している。看取りの希望も経験もあるので、折々に情報確認している。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている				
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、利用者様が安全に非難する方法を確認している。	年2回うち1回は消防署の協力を得て火災等を想定した訓練を実施している。はしご車の訓練も、夜間対応訓練もある。運営推進会議委員の協力を得て、地域防災会との連携を図っている。自家発電装置を備えるとともに、水や食料の備蓄も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保をしっかり守っている。声かけ言葉遣いに問題がないか確認し、適宜注意をしている。	利用者が人生の先輩であるという認識を基本に、一人ひとりへの対応を心がけている。管理者は特に、言葉遣いにおいて、親しさのなかにも馴れ合いにならないよう留意するよう図っている。ユニット会議などで話題とし、注意し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位ではなく、利用者本位を心掛けている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など決まった時間はあるものの、ケースバイケースで状況判断をし、利用者のペースに合わせて支援する様、努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後だけではなく、日ごろから爪やひげが伸びていないか、気を付けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備片付けは利用者と一緒にしている。食事の際は見守りを兼ねて職員も一緒に席につき、会話を楽しんでいる。今後、食器やお盆の刷新も行う予定。	3食ともに配食を調理し、味噌汁を作りながら、暖かい食事を食べている。自家菜園の新鮮な野菜や差し入れ等で季節感を増す場合もある。盛り付けや配膳は利用者も、役割として生き生きと行っている。月に1回出前を取ったり、ティータイムを作って菓子を楽しんだり、食べる楽しみを大切にしている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は各利用者様に合わせて提供している。水分量についても毎日管理を行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがい、食後の口腔ケアを徹底している。また本人に任せきりではなく、職員見守り又は支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンの把握やおむつの必要性を精査するとともに定期的にトイレ誘導を行い、失禁軽減に繋げている。	利用者一人で便器に座って、を基本に支援している。一人ひとりの排泄チェック表を基に、皆で排泄パターンを把握し、適時声掛けを行っている。おむつ使用についても、リハビリやパットを含め、支援内容を適宜精査している。改善の事例もある。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽体操を行ったり、水分摂取の促しや、便秘日数を常時管理し服薬による排便コントロールも行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は事業所本位の日時で入浴を頂いているが、その時の本人の要望に合わせて、変更を柔軟に行っている。	利用者の希望を聞きながら柔軟に対応し、週2回の入浴で清潔を保持している。個浴で、身体的に大変な方には機械浴で対応し、安全に入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる利用者については、会話や入浴剤で楽しみを増やしたり、家族の支援を頂いたり、職員の話合いでアイデアを見つけながら支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド以外にも、ソファで休憩を取って頂いたり、マッサージチェアも有効活用している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を業務として行うだけではなく、薬情により情報を共有し理解に努めている			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の嗜好等ははあくしているものの、それに合わせた支援は十分にはできなかった。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かけるのはほぼ叶わず仕舞い。車内から景色を見るだけのドライブを行うなど、制限された外出支援となった。	例年は、花見や紅葉狩り等の季節のドライブ、近隣の公園への散歩、買物等戸外に出る機会は多かったが、今年は所内で対応することを基本にした。外気に触れるために、中庭での日光浴やカフェを楽しむとともに、野菜作りや水やり、少々の散歩、そして車内だけの紅葉ドライブなどで、生活に変化とリズムを持たせるよう取り組んでいる。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会がなかった。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送ったり、テレビ電話で交流を図った。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾等で季節感を出しつつも、不快にならない様、清潔感も含め配慮している。乾燥する時期には加湿器を導入し、健康管理にも注意する事で居心地の良い空間になる様、努めている。	落ち着いて明るいリビングは、温度・湿度管理が行われ、清潔さが保たれている。そして、花が飾られ、壁には手作りの装飾品等が飾られている。利用者が、四季が感じながら、居心地よく過ごせるよう工夫されている。転倒防止にも留意されている。テーブルでは、気の合う利用者同士が会話を楽しんでいる。歌声も聞こえてくる。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーテーションを外し、オープンな空間を作る事で、気の合う人同士寄り添ったり、独りになれる場所の選択肢が増えるよう、配慮できている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を居室内に置いたり居心地よく過ごせる居室作りを利用者本人と家族に相談し実現している。	利用者は、思い思いの馴染みの家具を持ち込み、壁には家族の写真等を貼ったりして飾り付けを行い、自宅と同じような環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。清掃にも配慮されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、やれる事ができる生活の場となる様、支援している。			